

# 伊豆諸島八丈島産ゾウムシ上科甲虫の分布資料

小島弘昭<sup>1)</sup>・川畑喜照<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 243-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学昆虫学研究室

<sup>2)</sup> 〒 100-1511 八丈町三根 1784-2

## Distributional data of the weevils from Hachijō-jima Is., the Izu Islands, Japan

Hiroaki KOJIMA and Yoshiteru KAWABATA

Summary: Distributional data of some weevils (Coleoptera, Curculionoidea) previously recorded from Hachijō-jima Is., the Izu Islands, Tokyo are emended and corrected since it became clear that these records had been based on misidentification. Eight species are omitted on record from Hachijō-jima Is. and/or the Izu Islands, but nine species are newly added to the fauna. Resultingly, a total of 123 species, which is the highest in number among the Izu Islands, of weevils excluding Scolytidae and Platypodidae are known from the island.

伊豆諸島八丈島産のゾウムシ上科甲虫に関する記録は古くからあり (Kôno, 1927, 神谷・山本, 1935; 正木, 1937; Chûjô & Morimoto, 1960 など), 伊豆諸島のゾウムシ相をまとめた Morimoto & Miyakawa (1985) の研究で, ヒゲナガゾウムシ科とキクイムシ科, ナガキクイムシ科を除くゾウムシ上科がまとめられた。この時点で, 同定等に疑問のある過去の古い記録も含めると, 62 種の記録がある。ヒゲナガゾウムシ科は妹尾 (1987) が東京都の記録をまとめた報告の中で, 八丈島産種についても扱い, 8 種の分布を確認している。その後, 最近になって, 野津 (2010) や沢田 (2010) および川畑 (2011), Kojima (2011, 2012b) によって追加記録が報告され, 現在までに計 8 科 122 種の記録がある。なかでも, 著者の一人で八丈島在住の川畑による 2011 年の報告は長年の調査結果に基づく, 多数の新記録種を含むもので, 近年の業績としてはもっとも重要なものと言える。

著者の一人小島は最近, 川畑の報告に使われた標本を検査する機会を得て, 以下のような種について記録の訂正ならびに追加を確認したので報告する。また, Kojima (2011) で記録した 1 種も誤同定であったので, あわせて訂正するとともに, 近年の調査によって新たに分布が確認された種についても報告する。

報告にあたり, 土壌性ゾウムシ類の調査ならび採集に協力頂いた東京農大の小島誠史, 清水雄貴の両氏に厚く御礼申し上げる。なお, 本研究は科学研究費補助金 (24510333) の助成を受けて行われた。

### 伊豆諸島あるいは八丈島からの記録を削除すべき種

1. アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus tarsalis* (Sharp, 1891)

枯れ木等に各地で普通に見られる種で, 伊豆諸島では三宅島から記録がある。八丈島からの記録 (川畑, 2011) は, 近似のワタミヒゲナガゾウムシ *A. coffeae* (Fabricius, 1801) の誤同定であった。よって, 本種の八丈島からの記録を削除する。

2. ウエノキクイサビゾウムシ *Dexipeus uenoi* Morimoto, 1978

これまで琉球列島からのみ知られていた種で, 八丈島三根産の 1 個体にに基づき記録されたが (川畑, 2011), 伊豆諸島から記載されたミヤケクイサビゾウムシ *Orthosinus japonicus* Morimoto & Miyakawa, 1985 の誤同定であった。よって, 本種の伊豆諸島からの記録を削除する。

3. ミドリクチプトゾウムシ *Cyphicerus viridulus* (Roelofs, 1873)

北海道から九州にかけて分布する種で, 伊豆諸島からの記録はなかった。草地で得られた八丈島産の少数個体に基づき記録されたが (川畑, 2011), 近年八丈島で異常発生し, ヒサカキの害虫となりつつある国内外来種サカグチクチプトゾウムシ *Oedophrys sakaguchii* (Kôno, 1930) の誤同定であった。よって, 本種の伊豆諸島からの記録を削除する。

4. ケバクチプトゾウムシ *Lepidelistomodes fumosus* (Faust, 1882)

神津島までの北伊豆諸島を含む本州から九州,

韓国に分布する。スダジイから得られた八丈島産の複数個体に基づき記録したが (Kojima, 2011), コクロホシクチブトゾウムシ *L. kokurohoshi* Kojima & Morimoto, 2006 の誤同定であった。よって、本種の八丈島からの記録を削除する。

5. ナカグロカレキゾウムシ *Acicnemis kiotoensis* Nakane, 1963

本州から琉球列島, 台湾まで分布するが, 伊豆諸島からの記録はなかった。八丈島産の複数個体に基づき記録されたが (川畑, 2011), これまで伊豆諸島からも記録のあるマダラカレキゾウムシ *A. maculaalba* Roelofs, 1875 の誤同定であった。よって, 本種の伊豆諸島からの記録を削除する。

6. クリアアナキゾウムシ *Pimelocerus exsculptus* (Roelofs, 1875)

北海道から九州の本土部に広く分布するが, これまで伊豆諸島からの記録はなかった。八丈島産の複数個体に基づき記録されたが (川畑, 2011), コクロアナキゾウムシ *P. cribratus* (Roelofs, 1873) の誤同定であった。よって, 本種の伊豆諸島からの記録を削除する。

7. タイワンモンクチカクシゾウムシ *Sclerolips horridus* Heller, 1931

佐多岬以南から琉球列島, 台湾まで分布する種で, ごく近似の種であるモンクチカクシゾウムシ *S. maculicollis* (Morimoto, 1962) が本土部および南伊豆諸島に分布する。両種の関係については今後, 分類学的な再検討を要するが, ここでは従来の記録に従い, 八丈島産の個体はモンクチカクシゾウムシとしておく。よって, 本種の伊豆諸島からの記録を削除する。

8. マツコブキクイゾウムシ *Xenomimetes destructor* Wollaston, 1873

北海道から九州にかけて分布する種で, 伊豆諸島からの記録はなかった。八丈島産の少数個体に基づき記録され, 小形の個体と記述されているが (川畑, 2011), 伊豆諸島から記載されたホソコブキクイゾウムシ *Xenomimetes tenuis* Morimoto & Miyakawa, 1985 の誤同定であった。よって, 本種の伊豆諸島からの記録を削除する。

未同定種として記録された種で種名が確定した種

1. クロクチカクシゾウムシ *Catagmatus japonicus* Roelofs, 1875

*Catagmatus* sp. として記録されたが (川畑, 2011), 伊豆諸島に比較的広く分布し, 八丈島からも記録のある上記種であった。

2. オオナガキクイゾウムシ *Oxydema longula* (Boheman, 1859)

*Oxydema* sp. として記録されたが (川畑, 2011), 八丈島を含む伊豆諸島から記録がある上記種であった。

誤同定

1. ワモントゲトゲゾウムシ *Colobodes ornatus* Roelofs, 1875

八丈島産の複数個体に基づき, 上記種として記録されたが (川畑, 2011), 標本を検した結果, 1 個体 (1 ex., 中之郷, 5. ix. 2001) を除き, ネジキトゲトゲゾウムシ *C. ornatoideus* Morimoto, 1988 の誤同定であった。ワモントゲトゲゾウムシはネジキトゲトゲゾウムシと比べ八丈島をはじめ伊豆諸島では個体数が少ない。

伊豆諸島あるいは八丈島から新たに記録される種

1. ワタミヒゲナガゾウムシ *Araecerus coffeae* (Fabricius, 1801)

前述の通りアカアシヒゲナガゾウムシとして記録された種で (川畑, 2011), 八丈島からは新記録となる。著名な貯穀害虫で, 八丈島には物資の流通の過程で侵入したと思われる。

2. ヒメケブカホソクチゾウムシ *Sergiola praecaria* (Faust, 1889)

<検視標本> 6 exs., 甚太, 18. v. 2012, 小島弘昭 採集・保管。

伊豆諸島ではこれまでに神津島からの記録があるのみで (小島, 2011), 八丈島からは新記録となる。ウツギ類から得られる。

3. ミヤケキクイサビゾウムシ *Orthosinus japonicus* Morimoto & Miyakawa, 1985

前述の通りウエノキクイサビゾウムシとして記録された種で (川畑, 2011), 伊豆諸島ではこれまで三宅島と御蔵島からそれぞれ土壤中より得られた 1 個体のみが知られる非常に珍しい種で, 八丈島からは新記録となる。

4. コクロホシクチブトゾウムシ *Lepidepistomodes kokurohoshi* Kojima & Morimoto, 2006

前述の通りケブカクチブトゾウムシとして記録

された種で (Kojima, 2011), これまで伊豆諸島からの記録はなかったが, 最近, 伊豆大島でも見つかった (Kojima *et al.*, in press). 八丈島からは新記録. スダジイより得られるが, 島内での産地はやや局所的.

<追加検視標本> 7 exs., 檜立, 16. v. 2012; 1 ex., 中之郷, 19. v. 2012; 12 exs., 底土, 4. vi. 2013, すべて小島弘昭採集・保管.

5. エノキノミゾウムシ *Orchestes horii* (Kôno, 1930)  
<検視標本> 49 exs., 三根, 3.VI.2013, 小島弘昭採集・保管.

伊豆諸島からはこれまでに伊豆大島, 新島, 御蔵島, 三宅島から記録があり (Morimoto & Miyakawa, 1985; 小島・藤澤, 2011; Kojima & Zhang, 2013), 八丈島からは新記録. エノキの葉を加害する.

6. ヒラセノミゾウムシ *Orchestes dorsoplanatus* Roelofs, 1874

<検視標本> 1 ex., 防衛道路, 3. vi. 2013, 小島弘昭採集・保管.

伊豆諸島からはこれまでに伊豆大島, 新島, 神津島から記録があり (小島, 2011; Kojima, 2012a; Kojima & Zhang, 2013), 八丈島からは新記録. スダジイから得られる.

7. コクロアナアキゾウムシ *Pimelocerus cribratus* (Roelofs, 1873) (Fig. 1)

前述の通りクリアアナアキゾウムシとして記録された種で (川畑, 2011), 八丈島のみならず伊豆諸島から新記録となる. 本州, 四国, 九州から朝鮮半島に分布するが, 産地は局所的で生態は未知 (Morimoto, 1982; 小島・森本, 2004).

8. ウエノヒョウタンクチカクシゾウムシ *Hytanzou uenoi* Morimoto, 1962

<検視標本> 1 ex., 大賀郷金山土, 7. vi. 1997; 1 ex., 末吉 (こん沢, 材), 21. vi. 1998; 1 ex., 三根, 5. v. 2001. すべて川畑喜照採集・保管.

伊豆諸島では利島から記録があったのみで (Morimoto & Miyakawa, 1985), 八丈島からは新記録となる.

9. オオシマヒサゴクチカクシゾウムシ *Simulatacalles oshimaensis* Morimoto & Miyakawa, 1985 (Fig. 2)

<検視標本> 4 exs., 中之郷, 11. v. 2012, 小島誠史・清水雄貴採集 (土壌を採取し, ツルグレンにて抽



Figs. 1–3. Habitus photographs of weevils new to the fauna of Hachijô-jima Is. and habitation of *Scepticus uniformis* on the island. — 1, *Pimelocerus cribratus*; 2, *Simulatacalles oshimaensis*; 3, habitation of *S. uniformis* (note the piled sand, which was brought from off-island).

出), 小島弘昭保管.

伊豆大島から記載された種で, その後, 本州 (和歌山), 四国, 九州からも見つかった (Morimoto & Lee, 1992; 的場, 1999). 八丈島からは初記録となる.

### まとめ

今回の報告により, キクイムシ科とナガキクイムシ科を除く八丈島産ゾウムシ上科甲虫の総種数は 123 種となった. はじめにも記したとおり, この中には古い記録で, 同定や産地表記に疑問のある種も含まれており, 将来検討を要する. 八丈島産のゾウムシ上科種数は伊豆諸島中最大で, 面積 (69.5 km<sup>2</sup>) は 2 番目に大きい, 本土 (東京) から南方に 287 km と 2 番目に遠く離れた島で, これだけの種数が分布することは大変興味深い. Morimoto & Miyakawa (1985) でも指摘されているとおり, 伊豆諸島のゾウムシ相は南部に行くに連れ, 琉球列島との共通種の割合が高くなる傾向がある. 本土要素に琉球要素が加わることで八丈島に生息する種数が増えていると考えられるが, これ

以外に人為的な移入種の定着も近年無視できない状況になりつつあり、新たに発見される種にそのような種が少ない。ここ 10 年程の間に定着したと考えられる国内外来種だけでも、ワタミヒゲナガゾウムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、サカグチクチプトゾウムシ、チビコフキゾウムシ、ヤサイゾウムシ、ダイコンサルゾウムシ、マツノシラホシゾウムシ、ニセマツノシラホシゾウムシ、アルファルファタコゾウムシ、ヒラヤマメナガゾウムシと 11 種におよび、国内外来種の数も伊豆諸島中もっとも多い。温暖な南西諸島方面からの観葉植物や観光開発、公園整備にともなう根つき植樹の大量持ち込みが行われており、それに紛れて侵入したものが大半と考えられる。これら移入種の中にはサカグチクチプトゾウムシやヒラヤマメナガゾウムシなど、異常発生し害虫化している種も存在する (川畑, 2011)。さらに、近年、これまで記録のなかった海浜性のトビイロヒョウタンゾウムシが、底土港脇の海岸から見つかった (沢田, 2010)。この場所は海水浴場として整備された場所で、伊豆諸島外からも砂を持ち込んでいるとのことで (港湾作業関係者私信)、本種はその砂に混じって持ち込まれた可能性が高い (Fig. 3)。

八丈島のゾウムシ相はまだ完全に解明されたわけではなく、今後も上述のような過程で、新たな種が人為的に侵入する状況が続くと、新たに見つかった種が在来種なのか移入種なのかの区別ができない状況になりかねず、島の生態系への影響のみならず、島の生物地理学的研究を行う上での支障をきたす恐れがあり、状況を注視して行く必要がある。

## 引用文献

Chûjô, M. & K. Morimoto, 1960. Curculionid-beetles from the Hachijô Island (1). *Entomological Review of Japan*, 11: 3-6.

- 神谷一男・山本 玄, 1935. 八丈島産甲蟲類目録 (豆南諸島昆虫分布資料 III). *昆虫*, 9: 228-231.
- 川畑喜照, 2011. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VIII. *神奈川虫報*, (173): 53-62.
- 小島弘昭, 2011. 伊豆諸島神津島から新たに記録されるゾウムシ上科甲虫. *さやばねニューシリーズ*, (4): 20-21.
- Kojima, H., 2011. Record of some weevils new to the fauna of Hachijô-jima and Aogashima Islands, the Izu Islands, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 1: 341-342.
- Kojima, H., 2012a. Additional record of weevils new to the fauna of Izu-Ôshima Island, the Izu Islands, Japan (Coleoptera, Curculionioidea). *Elytra*, (n. ser.), 2: 144.
- Kojima, H., 2012b. Additional record of weevils new to the fauna of Hachijô-jima Island, the Izu Islands, Japan (Coleoptera, Curculionioidea). *Elytra*, (n. ser.), 2: 150.
- Kojima, H. & C. Zhang, 2013. Weevils new to the fauna of Niijima and Shikine-jima Islands, the Izu Islands, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 3: 183-184.
- 小島弘昭・藤澤侑典, 2011. 伊豆大島から新たに記録されるゾウムシ上科甲虫. *さやばねニューシリーズ*, (4): 9-11.
- 小島弘昭・森本 桂, 2004. 日本産ゾウムシ上科のオンライン目録とデータベース. *九州大学総合研究博物館報告*, (2): 33-147.
- Kôno, H., 1927. Beitrag zur Kenntnis der Attelebiden-Fauna Japan. *Insecta Matsumurana*, 2: 34-45.
- 正木十二郎, 1937. 豆南諸島に於ける昆虫相に就いて (第 1 報). *昆虫*, 6: 80-93.
- 的場 績, 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. *和歌山県立自然博物館館報*, (17): 29-51.
- Morimoto, K., 1982. The family Curculionidae of Japan. I. Subfamily Hylobiinae. *Esakia*, (19): 51-121.
- Morimoto, K. & S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of the Izu Islands, Japan. *Mushi*, (50): 19-85.
- Morimoto, K. & C. E. Lee, 1992. Curculionidae from Cheju Island, Korea, with descriptions of three new species (*Insecta*, *Coleoptera*). *Esakia*, (32): 1-18.
- 野津 裕, 2010. 東京都八丈島のシギゾウムシ. *神奈川虫報*, (172): 13-14.
- 沢田佳久, 2010. 海浜性トビイロヒョウタンゾウムシの二島嶼からの発見. *日本生物地理学会会報*, 65: 163-167.
- 妹尾俊男, 1987. 東京都に生息するヒゲナガゾウムシ科甲虫について (I). *中央大学付属高等学校 教育・研究*, (1): 73-82.

(2014 年 4 月 7 日受領, 2014 年 5 月 25 日受理)

## 【短報】ジンサンシバンムシ成虫の野外における越冬例

ジンサンシバンムシ *Stegobium paniceum* (Linnaeus, 1761) は、乾燥食品などに付く食品害虫とされ、屋内で発見される例が多い一方で、ハトの巣などを源として野外でも発生することが知られている。その生態については、「越冬態は幼虫で、成虫は西日本では、保温性の良い一般家屋で 4 月中～下旬に出現する」(酒井, 1995)、あるいは「年 1～3 回の発生で、幼虫で越冬する」(「イカリ消毒の害虫診断・駆除商品情報サイト」より引用)と

されている。

筆者は、本種の成虫が東京と横浜の市街地において、成虫で野外越冬しているところを複数回確認しているため報告する。

1ex., 東京都目黒区碑文谷, 13. I. 2013; 1ex., 神奈川県横浜市都筑区新栄町, 10. II. 2013; 1ex., 東京都目黒区大岡山, 12. I. 2014 (採集個体はすべて筆者保管)。

これら 3 個体の成虫の越冬場所は、それぞれいづれもケヤキの樹皮下で、図 1 のように他の昆虫と共に越冬していた。採集して手の上に載せたり